

平和の願いを込めて 岐阜来月10日、つどいで披露

日本国憲法公布72周年を記念した「2018ぎふ平和のつどい」が11月10日、岐阜市民会館大ホールで開かれる。平和を願う毎年恒例の催しは、現在のようなかたちで実施するようになって今年で10年目。3歳のときから毎年参加する7歳の少年もあり、本番に向けて練習に励んでいる。



日本国憲法前文を読む椎名理君
(左から3人目)ら=岐阜市美江寺町2丁目

21日、同会館の一室に約40人の市民が集まつた。この日は約2時間、つどいで披露する群読「チロヌツブのきつね」の全体練習に取り組んだ。キツネの家族の穏やかな暮らしが人間の戦争によって奪われてしまうという物語。こぎつね役を演じる椎名理君(7)も情感たっぷりにセリフを読み上げた。

「緊張しなかつた」とはにかむ理君は、父で岐阜大学准教授の貴彦さん(獣医生理学)と母麻里子さんに連れられて2013年から毎年群読に参加している。貴彦さんは「護憲の大切さ

を多くの人に理解してもらうには、教条的に訴えるよりも、群読のように親しみやすい形の方が多くの人に受け入れてもらえるのではないか」と話す。

貴彦さんは、理君に護憲の大切さを説いたことはないという。「自分の憲法観を押しつけるのではなく、群読を通じて自然に平和について考えるようになつてくれたら」。そう願いながら、毎年、家族一緒に参加しているという。

つどいでは、「憲法と政治」(岩波新書)などの著書がある学習院大学の青井未帆教授(憲法学)が「9条を守るのは誰か?」と問われているのは私たち」と題して記念講演を行う。群読では日本国憲法前文も読み上げる。10年目を記念し、歩みを写真などでたどる「ぎふ平和のつどい・歩み展」も開かれる。

副実行委員長の吉田千秋・元岐阜大教授(哲学)は「多くの市民のみなさんに、平和について考える契機にしてもらえたなら」と話している。

時 時 11月10日午後1時半~4時(開場は0時半)。入場料800円。学生と障害のある人は無料。(山野拓郎)